

MELCO INC. ANNUAL REPORT '99



21世紀に向けてジャンプアップ ソリューション提案企業への新たな挑戦



新しいパラダイムへの シフトが起こる

21世紀を目前に控え、時代はかつてない変革期に突入しております。日本経済を例に見ても、バブル経済の後処理も不十分なまま深刻な不況に陥り、ここ数年は、大型金融機関をはじめとした企業の倒産が相次ぐ等、ほとんどの産業でリストラ等の構造調整が行われています。さらに一方で、ビッグバン等の金融構造改革を主とするグローバル化への構造的対応を急激に迫られています。

また世界に視点を移しても、インターネットやエレクトロニックコマース(EC:電子商取引)が、米国や日本をはじめとする先進国だけでなく、新興国にも急速に普及してきています。世界中の人々の情報共有が進展し、「日本においては」とか、「米国では」という国境を意識した考えは、すでに意味をなさなくなってきました。これは即ち、事業を遂

行していくにあたっても既存の経験則や理論は、ほとんど通用しなくなる可能性が高いことを意味しています。世界レベルでパラダイムシフト(人が考える時の基準や行動する時の規範の転換)が起こりつつあることに他なりません。

中長期を見据えた 経営計画を策定

当社は、この激変期を生き残り、21世紀もさらに一段と存在意義がある会社であり続けるため、中長期を展望し、今後当社が目指していく事業の方向性や行動計画(戦略・戦術)をより具体的に設定した経営計画を策定いたしました。

この経営計画は、単に事業面だけではなく、社員ひとりひとりの育成とあわせて、当社の体質改革も大きなテーマの一つに取り上げております。これにより、全社員が具体的な共通の目標に向かって有機的、組織的に行動することで、さらに強固な経営基盤の実現と業容の拡大を図ってまいります。

当社は、オーディオメカとして創業後、パソコン周辺機器メカへの転身を経て、今年度は第25期という節目の年にあたります。このような年に21世紀の初年度に至る中期経営計画を策定し遂行することで、この3年間を第三の創業期として位置づけ、明るい21世紀に向けて大きく飛躍していきたいと思っております。

PC、もっと使いやすく！ ソリューション提案企業へ

今後のパソコン業界は、短期的には引き続き好調に推移すると思われる個人向け需要に加え、ここ数年低調であった企業向け需要も、いわゆるパソコン減税等により、活況を呈するものと期待されます。中長期的には、後述の『MELCO'S EYE』でもご説明いたしますように、ネットワーク化の進展を背景として、ビジネス分野、家庭分野、産業分野のそれぞれにおいて大きな変革が起こり、情報通信（IT:インフォメーションテクノロジー）産業は飛躍的に拡大すると予想されます。

この市場環境を背景に当社は、十数年来モットーとしてきました「パソコン、もっと使いやすく」を、さらに深耕、展開してまいります。ビジネス分野、家庭分野に対しては、ネットワーク環境下で稼働しているパソコンを、より使いやすくするための提案や製品の提供に努力してまいります。また、産業分野に対しては、当社のパソコン技術を使って、従来からの装置や機器をより人にやさしく使いやすいものに作り替えたり、さらに発展して、例えばプリントクラブのように、今まで存在しなかった装置を当社で製品化したり、またこれを作ろうとしている人々や企業を手助けする活動を行ってまいります。

情報通信産業は、他の産業に比べ、製品、部品とも世界的規模で品質、価格、規格面の等質

化が進んでいますので、部材調達や製品の販売面での国際化対応にも同時に努力してまいります。もちろん、国内においても全国的な販売網の再編強化、既存製品の販売拡大、研究開発の強化も平行して進めてまいります。

新時代の情報通信産業の成長を支える 「ネットワークコンピューティング」



3つの柱に注目 情報通信産業の成長の原動力

1951年に初代の商用コンピュータが出現して以来、汎用コンピュータ、ミニコン、パソコンと市場を牽引する主役を次々と代えながら、目覚ましい発展を遂げた情報通信（IT：インフォメーションテクノロジー）産業は、1997年には全世界で90兆円を超える巨大市場を形成するに至りました。この成長は、コンピュータの省スペース化、低価格化、さらには使いやすさの向上を実現した微細加工技術の進歩によって支えられてきました。

8年後の2005年にIT産業の市場規模は、1997年の2倍の180兆円になると予想されています。それでは、今後の成長は何が支えていくことになるのでしょうか。新時代のIT産業の発展のカギは、インターネットを中心とした「ネットワークコンピューティング」にあります。そして、この成長とともに展開される3つの分野（柱）が特に注目されます。

第1の柱 ビジネスコンピューティングの進化

企業はこれまで業務の効率化を主目的として、コンピュータを導入し、社内のネットワークを構築し

てきました。しかし、時代が進みインターネット技術の普及は、これらコンピュータにコミュニケーションツールとしての役割を新たに持たせ、社内利用に限定（クローズ）されていたネットワークを、一気に世界中の企業や人々を巻き込んだオープンネットワークに変身させました。今では、1億台以上のコンピュータがインターネットに接続されています。

さらに、この巨大なオープンネットワークを利用して展開されるデジタルビジネスは、一大革命を巻き起こしています。具体的には、企業間、企業と消費者間、販売・購入業者間等の市場において、急速にエレクトロニックコマース（EC：電子商取引）や情報の共有化を進展させ、企業におけるコンピュータの利用は、より不可欠なものへと変化し始めました。その影響はハードウェア市場に止まらず、ソフトウェア、システムの保守・管理の市場も含め、IT産業に新しい市場を創造しています。

第2の柱 コンシューマコンピューティングの実現

一般の個人利用者を対象とする、いわゆるコンシューマコンピューティングの具体化に向け、情報のデジタル化が着々と進んでいます。例えば、米国においては1998年末から地上波TV放送で

始まっており、今年中にはCATVでも整います。そして、日本でも2000年には、関東圏から地上波デジタルTV放送が開始される予定です。

さらに、これらデジタル放送を受信するセットトップボックス（STB）と呼ばれるコンピュータの商品化も間近に迫ってきました。STBはデジタル放送の受信だけでなく、インターネットや電話機能をもって、家庭のリビングに情報ハイウェイをも引き込みます。インターネットを介して自分が見逃したくないTV番組や急発展している各種サービスを手したり、またCATVを利用し特定個人に限定した情報を基に計画されている本格的なサービスを楽しんだり、私たちにさまざまなコンピューティングを具体化してくれます。

低価格で提供されるSTBは、コンシューマコンピューティングを私たちの生活手段に欠くことのできないものとし、大きな市場を形成することになるでしょう。

第3の柱 産業機器とパソコン技術の融合

20世紀に入り、家電等の一般消費者向けの機器は、環境変化と社会情勢に合わせ、「誰にでも、簡単に、そしてすぐ使える」ようにすることで大きな

成長を遂げてきました。さらにこのことは、消費財ではない事務機器、娯楽機器や産業機器の分野でもまた同様でした。昨今の代表例として「コンビニエンスストアのレジスター」¹、「金融機関のATM（現金自動預け入れ、払い出し機）」²、「新幹線の券売機」³、「プリントクラブ」等便利さの追求には止まるところがありません。これらは皆、ディスプレイを触りながら操作できる容易性を実現しています。

こうした事務機器、娯楽機器や産業機器は全て、外形からはわかりませんが、高度に進化したパソコン技術を重要な要素として取り込んでいるのです。また、コンピュータが埋め込まれた情報家電といわれるTVや冷蔵庫の出現も間近です。今後ますます、パソコン技術と融合したさまざまな機器が私たちの生活に浸透してくることは、間違いありません。



ハードディスクの累計出荷台数が 100万台を突破!

1994年から発売を開始しましたハードディスクは、店頭の販売実績でトップシェアを記録し続けた結果、わずか5年目にして累計出荷台数が100万台を突破いたしました。これを記念して1998年5月に、中身の見える特別仕様のスケルトンハードディスク等が当たる「サンクス100万台キャンペーン」を実施いたしました。100万台突破は、高性能の製品を低価格で販売する当社の販売戦略が受け入れられた結果と考えます。今後も、さらに販売台数を伸ばしていくことができるよう努力してまいります。



選ばれて、信頼に応える CPUアクセラレータ

CPUアクセラレータ「HK6シリーズ」は、1997年8月の発売以来ユーザの皆様から熱いご支援をいただき、累計出荷台数が10万台を突破いたしました。「HK6シリーズ」は、ハードウェアとソフトウェア両面の技術に裏付けられた高い性能と品質で他社の追隨を許さず、おかげさまで最近半年以上も販売シェア1位を確保し続けています。

販売シェアNo.1メーカーとして当社は、今後もさらなるご期待にお応えできるよう魅力ある製品作りに努め、ラインアップの拡充を図ってまいります。

NECと次世代メモリの普及に向け共同歩調

日本電気株式会社が開発した新しいメモリアーキテクチャであるバーチャルチャネル・メモリは、現在製品化されているメモリインターフェースを改良し、データ転送速度の高速化や低消費電力を実現した次世代の標準メモリとして有力視されています。

当社は1998年12月、同社とバーチャルチャネル・メモリの普及に向けた取り組みを共同で進めることを合意いたしました。

時代を先取りしたテクノロジーを製品として具現化し、ユーザの皆様がいち早くお届けすることで、より新しく、より使いやすいパソコンの動作環境をご提案してまいります。



1999年4月、バーチャルチャネル・メモリを採用したメモリモジュール「VCシリーズ」を発売いたしました。

簡単・手軽にシステム構築、無線LANを発売

1999年1月、ビジネスオフィスに最適な無線LAN「AIRCONNECTシリーズ」を発売いたしました。

無線LANは、レアウト変更時にかかる移設工事

費用のコスト削減、有線LANにおけるトラブルの主要因の回避、モバイルコンピューティング環境の提供等、特にビジネス面での利便性を提供します。

当社は、使いやすくお求めやすい無線LANをご提供することにより、ビジネスオフィスにおける、有線LANと無線LANを使い分けた、さらに効率的なネットワーク環境をご提案いたします。



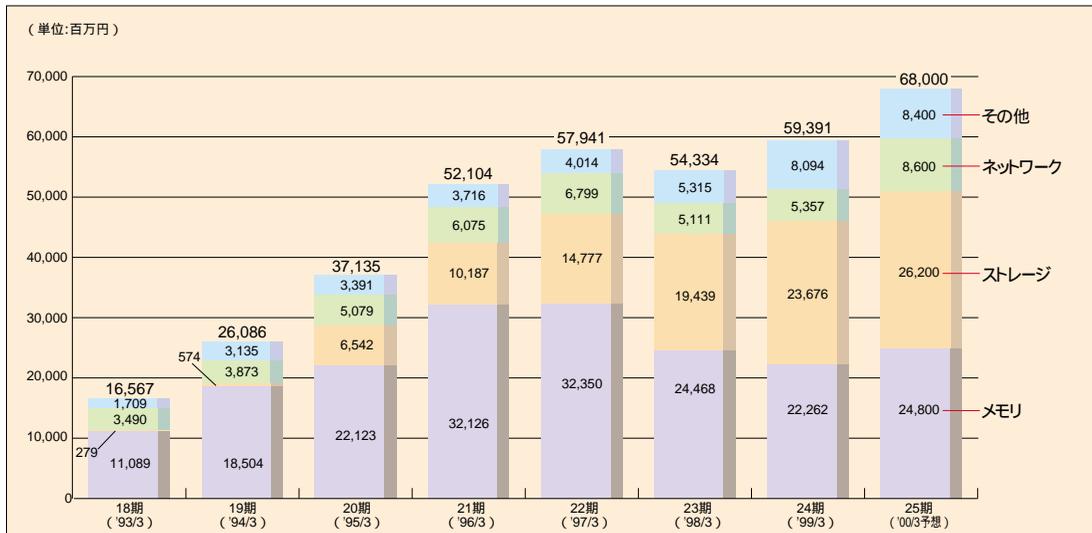
インターネットインフォメーション

会社案内、求人案内、製品案内、イベント情報等の最新情報を発信しており、大変多くの方々にご覧いただいております。



<http://www.melcoinc.co.jp/>
<http://www.melcoinc.com/>(ミラーサーバ)

売上高



経常利益と売上高経常利益率



当期利益と売上高当期利益率



株主資本と株主資本利益率(ROE)



貸借対照表(1999年3月31日現在)

(単位：百万円)

科目	金額	科目	
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	31,665	流動負債	
固定資産	11,426	金投資等***) 増(負債の減) 増(減)	
有形固定資産	2,440		
無形固定資産	14		
投資等	8,971		
資産合計	43,092		

損益計算書(1998年4月1日~1999年3月31日)

(単位：百万円)

利益処分

(単位：百万円)

(注)1998年11月25日に、193,226,152円(1株につき普通配当7円)の中間配当を実施いたしました。



份



株式会社 メルコ

本社 / 〒460-0011	名古屋市中区大須四丁目11番50号(カミヤビル) ☎(052)251-6891(代) FAX.(052)241-7979
東京本社 / 〒104-0028	東京都中央区八重洲二丁目8番1号(日東紡ビルディング 4F) ☎(03)3242-7777(代) FAX.(03)5203-8551
ハイテクセンター / 〒457-8520	名古屋南区柴田本通四丁目15番 ☎(052)619-1811(代) FAX.(052)619-1800
熱田事業所 / 〒456-0023	名古屋市熱田区六野二丁目1番3号 ☎(052)889-2324(代) FAX.(052)889-2328
仙台営業所 / 〒983-0852	仙台市宮城野区榴岡四丁目5番22号(宮城野センタービル 5F) ☎(022)291-0311(代) FAX.(022)298-9470
名古屋営業所 / 〒460-0011	名古屋市中区大須四丁目11番50号(カミヤビル) ☎(052)251-6997(代) FAX.(052)241-7291
大阪営業所 / 〒542-0076	大阪市中央区難波四丁目7番14号(リクルート難波4丁目ビル 5F) ☎(06)635-5500(代) FAX.(06)635-5501
福岡営業所 / 〒812-0013	福岡市博多区博多駅東三丁目12番1号(アノンダント95・2F) ☎(092)477-3711(代) FAX.(092)477-3743
サポートセンター秋葉原 / 〒101-0041	東京都千代田区神田須田町一丁目7番(神田セントラルビル) ☎(03)5297-7011(代) FAX.(03)5297-7012
サポートセンター名古屋 / 〒460-0011	名古屋市中区大須四丁目11番50号(カミヤビル) ☎(052)241-9311(代) FAX.(052)241-9314
サポートセンター大阪 / 〒542-0076	大阪市中央区難波四丁目7番14号(リクルート難波4丁目ビル 5F) ☎(06)635-0110(代) FAX.(06)635-0119